

会議録要旨

(1) 会議の名称	第4回南越駅周辺まちづくり計画策定委員会
(2) 開催日時	令和元年11月18日(月) 19:00～21:00
(3) 開催場所	市民プラザたけふ 3階 多目的室1
(4) 出席委員氏名	南保委員、下川委員、西藤委員、石原委員、岡本委員、山田委員、美濃委員、大塚委員、平井委員、河端委員、長谷川委員、三田村委員、酒井委員、龍田委員、勝木委員
(5) 欠席委員氏名	なし
(6) 出席所管課職員氏名	<p>福井県 交通まちづくり課 西野課長、産業政策課 久世参事 企業誘致課 谷川参事、観光誘客課 小山主任 都市計画課 白崎参事</p> <p>福井県丹南広域組合 竹中局長</p> <p>越前市 企画部 大蔵部長、藤原理事 建設部 伊藤部長、平野理事 建設部兼企画部 吉村特命監 建設部 児玉理事 産業環境部 小泉部長 まちづくり・総合交通課 坂川課長 産業政策課 諸山課長、商業・観光振興課 黒田課長 都市計画課 三田村課長、江端副課長、廣瀬主幹</p>
(7) 会議議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 市場調査の結果について 2 まちづくりを実現するための方策について 3 まちづくりの軸となる要素と目指すべき方向性について
(8) 傍聴者の数	9名
(9) 会議資料名称	第4回南越駅周辺まちづくり計画策定委員会資料

(10) 会議の内容
の要旨

(説明事項に対する主な意見)

○市場調査の結果について

- ・商業開発をするためには大手デベロッパーの参加は必要だと思うが、前向きな意向が感じられない。
- ・地元は期待しているので、魅力を感じる事業者を探してほしい。

○まちづくりを実現するための方策について

- ・B・Cゾーンは大阪万博（2025年）までに作り上げないと人が来てくれない。大阪延伸の前に開発しておかないといけない。
- ・2025年は高齢化・人口減少も進みショッピングセンター業界では1つの転換期として受け止めている。こうした状況の中でショッピングセンターを誘致するには「ここまで考えているから出店して欲しい。」という計画が必要である。ショッピングセンターの建設には3年は必要である。
- ・B・Cゾーンは丹南の強みを引き出し内外に示すものなので、すぐに着手してほしい。
- ・ゾーニング図は分かりやすいが、市民はA・B・Cゾーンの開発に期待している。Cゾーンの記載で、「将来的には」という記載があるが、将来的というとは10～20年をイメージしてしまうので、「段階的に」という表現にしてほしい。
- ・Aゾーンは3年後の開業時にできている必要があるのではないか。
- ・公共と民間の役割分担のところは、公民連携・公民協働の視点が必要である。
- ・地区内の交通網の整備や防災の視点など、企業が進出できる環境整備が必要である。

○まちづくりの軸となる要素と目指すべき方向性について

- ・フォレストシティは文化や歴史が融合したまちのことだと思うが、より市民が理解できるようなイメージが必要である。
- ・フォレストシティとスーパーシティは北側と南側全体の理念をイメージした言葉だと思う。
- ・資料のデザイン的にフォレストシティとスーパーシティが北と南に分かれているように見えるので、表現を検討してほしい。
- ・フォレストシティは北側だけでなく、開発エリア全体の景観ということだと思う。
- ・フォレストシティは森というより林で、大学のキャンパスのようなイメージだろう。ゾーンより全体のイメージが必要であり、今回全体の概念がでてきている。
- ・デベロッパーも様子を見ている段階であり、自然や景観、伝統産業をこう示していくという気概、意思が必要だと思う。
- ・丹南の強みを活かすまちづくり、それを補完する機能、施設の導入、そしてそれを未来につなぐ機能、まちづくりの実施などのイメージが見える資料が必要だと思う。